

香川県豊島の環境再生を目指して

岡山大学との産学連携による 植生回復活動を開始

第9回環境保全・再生活動を実施

NGP協同組合は5月19・20日の2日間、香川県豊島において、環境保全・再生活動を行いました。これはNGP SDGs宣言のもとに掲げた「2030年NGPの目標」の達成に向けて2019年より取り組んでいるもので、今回で9回目となります。

今回はおもに「岡山大学との産学連携による植生回復活動」、「初参加者の産業廃棄物不法投棄現場の見学」、「柚の浜オリーブ植樹場所の手入れ」、「海岸漂着ゴミ回収活動」を行いました。

なお、前回と同様に新型コロナウイルス感染防止の観点から、事前に抗原検査をした上で、豊島への移動では定期船を使用せずにチャーター船を利用するなど、可能な限り豊島住民と接触しないよう配慮してボランティア活動を行いました。

取り組みを開始した経緯

香川県豊島は、1990年に国内戦後最大級と言われる不法投棄事件「豊島事件」が起きた場所です。不法投棄された廃棄物の多くは使用済み自動車の破砕くず（シュレッダーダスト）であり、この事件が自動車リサイクル法制定のきっかけの一つとなりました。

豊島に持ち込まれた産業廃棄物の総量は約90万トンです。廃棄物には鉛、PCB、ベンゼン、トリクロロエチレンやダイオキシンなどの有害物質が非常に多く含まれており、それらによる汚染は廃棄物層直下の土壌や処分地内の地下水にまで及んでいることが判明しました。

2003年から開始された廃棄物の撤去は、完了までに約14年の歳月と700億円以上の処理費用を要しました。2021年度に水質が「排水基準」に到達し、2022年3月



不法投棄現場の現状

に汚染水が流れ出ることを防いでいた遮水壁を撤去しています。20年以上続いた処理事業は最終段階を迎えており、2023年3月に迫った産廃特措法の期限までに作業を完了させることを目指しています。

将来、汚染された地下水が環境基準を満たしたことを確認した後、不法投棄現場の土地は正式に住民へ返還されることになります。しかし、元の緑豊かな状態へ戻るまでには、まだ長い時間が必要です。

NGPは自動車リサイクルに関わる事業者として、豊島の環境再生に積極的に携わる責務があると考え、2019年より、瀬戸内オリーブ基金（※1）の「豊島・ゆたか

2030年NGPの目標

香川県豊島の産業廃棄物（自動車破砕くず等）不法投棄により失われた自然を取り戻す環境再生活動を行い、環境保全と3Rの大切さを後世に伝える活動を行います。

NGPの目指すゴール

- ・ 国立公園にふさわしい姿へ原状回復
- ・ 豊島事件のようなことが二度と繰り返されないよう、環境教育の場として活用
- ・ 適切な方法で管理し、持続可能な形で次世代に引き継ぐ

2030年までに不法投棄現場すべてが、国立公園にふさわしい姿にもどることを目指して活動していきます。



環境保全・再生活動は産業廃棄物不法投棄現場の近くで実施している

※1 「豊島事件」をきっかけに、2000年に設立されたNPO法人。瀬戸内の美しい自然を守ること、再生することを目指している。

なふるさとプロジェクト（国立公園原状回復事業）」に参加し、豊島の環境保全・再生活動に取り組んでいます。

岡山大学との産学連携による 植生回復活動をスタート

岡山大学大学院環境生命科学研究科の嶋一徹教授は、2015年1月に廃棄物対策豊島住民会議の安岐正三事務局長から「何となく植物が生えて緑になっているが、元の自然とは違うのではないか」との相談を受けたことをきっかけに、不法投棄現場周辺の植生を調査しました。

調査の結果、かつてはコバノミツバツツジやナツハゼなど約18種類ほどの植物が生息していましたが、不法投棄によって植生が破壊され、半分以下に減ってしまったことが判明しました。調査結果を受けた安岐事務局長の「不法投棄現場に元の豊かな自然が戻るまで、産廃問題は終わらない」、「自然の力を使い、植生が回復する手法を示してほしい」という強い想いに応え、嶋教授をはじめとした岡山大学は2015年4月より植生回復活動を開始しています。

そしてその後、「豊島・ゆたかなふるさとプロジェクト」のボランティアの力も借りながら、調査研究と植生回復活動に取り組んできました。

今回、NGPが「豊島の環境再生」の達成に向けた今後の活動内容について瀬戸内オリーブ基金に相談したところ、岡山大学が実施している植生回復活動の話を聞きま

した。そこで、岡山大学が目指しているこれからの豊島の姿、活動に込める想いがNGPと同じであることを実感するとともに、それら活動を進めるための人手が全く足りていない状況を知り、豊島の植生回復の手助けができるならばと産学連携による活動をスタートしました。

岡山大学では植生回復活動の一環として、コバノミツバツツジの種から苗木へと育成し、その苗木を一年間、地元の小・中学校に預けて毎日水やりをしてもらい、不法投棄現場へ植樹してきました。2021年2月に開催された植樹式には、NGPも豊島小・中学校、岡山大学、瀬戸内オリーブ基金とともに出席しています。

今回、NGPが岡山大学と連携して植生回復活動を行った場所は、不法投棄現場の見学に利用するために瀬戸内オリーブ基金が設置した見学道の階段の脇です。この場所で植生回復に取り組むことで、不法投棄現場の見学に訪れた人たちに、環境問題についても考えてもらうきっかけになればという考えがあります。

見学道の植栽地は、不法投棄の影響で植生が崩壊し地面が露出した状態であったため、斜面の崩落を防ぐ目的で植えられた外来種のコマツナギが繁殖しています。不法投棄が行われる前の植生とは異なる状態であり、わずかに数種類の植物しか生育しておらず、多様性が極めて乏しいのが現状です。

「見た目は緑が回復しても、豊かさは回復できていません」と嶋教授は語ります。

見学道の植栽地で 植栽している植物

- | | |
|-----------|-------------|
| ① シャリンバイ | ⑥ トペラ |
| ② イヌザンショウ | ⑦ ヒサカキ |
| ③ クスノキ | ⑧ コバノミツバツツジ |
| ④ イヌビワ | ⑨ タラノキ |
| ⑤ アカメガシワ | |

そこで見学道の植栽地では、本来自生していた多様な植物の種子を島内で採取し、育苗してから植栽しています。

今回初めてこの活動に参加したNGPの参加者たちは、嶋教授と学生たちによるレクチャーを受けながら、島に本来自生している植物の成長を阻害する雑草や外来植物の除去、しごら柵の補修、樹木への名札付け、雑草繁茂抑制及び土壌乾燥防止を目的とした堆肥の敷設を行いました。また、2月に植樹を行ったコバノミツバツツジの植栽地では、成長を阻害する雑草を除去するとともに、植栽地脇の水路の側壁崩壊を防ぐための土嚢を設置しました。

参加者からは、「一度破壊された自然は長い時間をかけないと元に戻せないことを改めて感じました」、「豊島の環境が完全に元に戻るまで、活動に関わりたいです」との声が聞かれました。夏にかけて雑草が繁茂していくため、今後も定期的に活動を続け、植生の回復に取り組んでいきます。

産業廃棄物不法投棄現場の見学

今回、持続可能な社会の実現を目指し、組合内にSDGsの活動の輪を広げることを目的として、NGPとして初めて組合員会社の従業員にまで対象を広げて、豊島環境保全・再生活動の参加者を募集しました。これまで定期的に活動を報告し、組織として取り組む意義や目的を伝えていたため、過去最多となる総勢11社23人が参加しました。



嶋教授（後列右から3人目）と学生たち（前列3人）、NGPボランティア



【見学道の植栽地】雑草の除去作業



【見学道の植栽地】しごら柵の補修作業



【見学道の植栽地】作業前



【見学道の植栽地】作業後

初参加のメンバーも過去最多の12人となり、豊島事件の経緯とNGPの活動の意義について正しく理解してもらうための説明会を実施しました。

廃棄物対策豊島住民会議・安岐事務局長から豊島事件の歴史と不法投棄現場の現況について説明を受けるとともに、NGP事務局の鈴木成幸専務理事からNGPのこれまでの活動内容とその意義、今後の決意についての話を聞き、環境保全・再生活動に対する想いを共有しました。

その後、実際に不法投棄現場と「豊島のこころ資料館」を見学し、豊島事件の重大さ、そして一度破壊された環境を再生することがどれだけ大変なのかを痛感しました。参加者からは、「豊島事件のこと、悲惨な汚染状態だったこと、長い年月がたってもまだ終わらない現状を肌で感じ、豊島でのNGPの活動意義がとてもよく理解できました」、「今後も活動を継続しながら最後まで見届けたいです」といった声が聞かれました。

「柚の浜」オリーブ植樹場所での活動

2022年3月には、2019年の活動開始当初より荒廃地の整備作業に取り組んできた「柚の浜」において、整備後の土地を有効利用するためにオリーブの木を植樹しました。オリーブの木は香川県の県木で、平和の象徴であるとともに、豊島事件の公害調停成立の際の記念樹でもあります。そのオリーブの木を植樹して育てていくことには、平和の輪を広げ、次の世代へ美しい豊島、地球を残したいというNGPの想いが込められています。このオリーブの木を乾燥から守り、土壌を改良するため、堆肥と水を撒きました。参加者からは、「このオリーブを収穫できる日が楽しみです」といった声が聞かれました。

さらに今回オリーブを植樹し、新たなスタートを切った記念として、石碑を設置しました。

豊島では、先人から受け継いだ豊かで美しいふるさとを取り戻すという強い思いのもと、25年にも渡る公害調停を闘い抜いた歴史があります。NGPもそんな豊島のこころを忘れてはいけない、豊島を元の豊かな島に戻すという強い決意を、この柚の浜のオリーブ植樹場所に託すため、「忘れない 豊島のこころ 豊かな自然 豊かな島へ」というメッセージを石碑に刻みました。

海岸漂着ゴミ回収活動

瀬戸内海の家ゴミ問題は深刻であり、豊島も海ゴミの漂着先になっています。NGPはきれいな島を守るために、ペットボトルやブイなどの漁業ゴミ、プラスチック類などの海岸漂着ゴミの回収活動を行っています。

今回はこれまでゴミの回収活動をしたことがなかった「水ヶ浦」（産業廃棄物不法投棄現場近く）と「横引ヶ浜」（豊島のこ



【コバノミツバツツジの植栽地】雑草の除去作業



整備する前の柚の浜



水ヶ浦でのゴミ回収活動の様子。水ヶ浦は、陸路でつながっていないため船で移動した

こころ資料館の脇）の2個所で作業しました。

手つかずの場所であったためゴミが多く、そのほとんどはペットボトルや、発砲スチロールなどのプラスチックゴミでした。豊島を含む瀬戸内海の生態系を守るため、入念に回収活動を行いました。

NGPは、今後も瀬戸内オリーブ基金と協力して各種活動を継続し、「豊島事件」の悲劇を二度と繰り返さないために環境保全・再生に取り組んでまいります。



豊島のこころ資料館で、廃棄物対策豊島住民会議の安岐正三事務局長から豊島事件の歴史について学ぶ



柚の浜の荒廃地を整備した後、オリーブを植樹し、石碑を設置



横引ヶ浜でのゴミ回収活動の様子。横引ヶ浜は陸路で行くことができる場所だが、初めて活動を行う場所ということもあり多くのゴミを回収した

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和4年5月：

2,089t



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和4年5月：

0.4t

※自動車リサイクル部品産業共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む）115品目を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員 かわら版

自動車リサイクル法制定の契機となった豊島事件を学ぶ NGP九州支部、SDGsの 一環として香川県豊島を訪問

NGP協同組合九州支部（斎木崇司理事）は支部のSDGs活動の一環として、組合員各社のNGP代表15人で香川県豊島を訪問しました。

NGP九州支部は今期の支部活動方針として、SDGsの推進を掲げています。自動車リサイクル事業者としてSDGsを掲げるのであれば、自動車リサイクル法制定の契機となった「豊島事件」について現場で学び、NGP全体で取り組んでいる環境保全・再生活動の意義を理解することで各社の今後の活動につなげていきたいとの思いから、今回の訪問に至りました。

豊島では廃棄物対策豊島住民会議事務

局長の安岐正三氏より、豊島事件の歴史と不法投棄現場の現況について学ぶとともに、NGP事務局より「NGPがなぜ豊島で活動をしているのか」これまでの活動内容とその意義について説明を受け、改めて今後の豊島環境保全・再生活動に対する決意を共有しました。

その後、不法投棄現場と「豊島こころの資料館」を見学した際、安岐氏から語られる当時の住民たちの壮絶な闘争の歴史と熱い思いに、参加者たちは一様に聞き入っていました。

九州支部支部長の猪口秀毅氏は「長い年月が経ってもまだ終わらない豊島の現状に、驚きを隠せません。また、その豊



島でNGPが活動する意義を知ることができました。今後は支部でも持続可能な社会の実現に向けた活動を活性化させていきたいです」と、2030年までのSDGsの達成に向けた決意を語っています。

自動車リサイクル工程やNGPの取り組みを解説

トヨタ自動車九州(株)に向けて NGPバーチャル工場見学会を実施

NGP協同組合は5月12日、トヨタ自動車九州(株)（福岡県宮若市）に対して、バーチャル工場見学会を実施しました。

トヨタ自動車九州(株)は2020年9月から小学生向け、2022年4月から大人向けにリモート工場見学を開催しています。リモート工場見学を開催する中で、特に自動車産業について学習する小学5年生から自動車のリサイクルやSDGs・環境への取り組みに関する質問を多く受けることから、自動車のリサイクル工程について学びたいという同社からの申し出があり、案内スタッフ11名に向けたNGPのバーチャル工場見学会が実現し

ました。

自動車のリサイクル工程を見るのは初めてという参加者がほとんどで、非常に熱心に動画を視聴し、クイズにも積極的に参加する姿が見られました。質疑応答の時間では、「当社では、車1台を製造するのにかかる時間は19時間と案内しているが、車1台をリサイクルするのにかかる時間はどのくらいか?」、「リサイクルした資源をさらにリサイクルすることはできるのか?」など、多くの質問が寄せられました。さらには「当社のリモート工場見学で自動車のリサイクル等に関する質問が出た際など、今回学んだこ



とを活かして自動車リサイクルについても伝えていきたい」という感想をいただくことができました。

自動車の製造工程を担う会社から申し込みをいただき、製造工程に携わる方々に自動車リサイクルの流れやNGPの取り組みを直接伝えることができた今回のバーチャル工場見学会は、NGPにとって大きな意義があり、また感慨深いものとなりました。

組合員情報変更

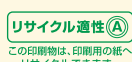
支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北関東	株式会社栃木パーツ	会社代表	代表取締役 清水 暁	2022年5月23日
中四国	株式会社山陰エコ・リサイクル	会社代表	代表取締役 福島 克治	2022年5月2日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、再生可能エネルギー 100%で印刷。印刷会社が所有する施設や車両、購入した電力などエネルギーの製造時に排出される CO₂ 全量をカーボンオフセット（相殺）した「CO₂ ゼロ印刷」で印刷しています。